医局紹介

研究プロジェクトの精鋭たち

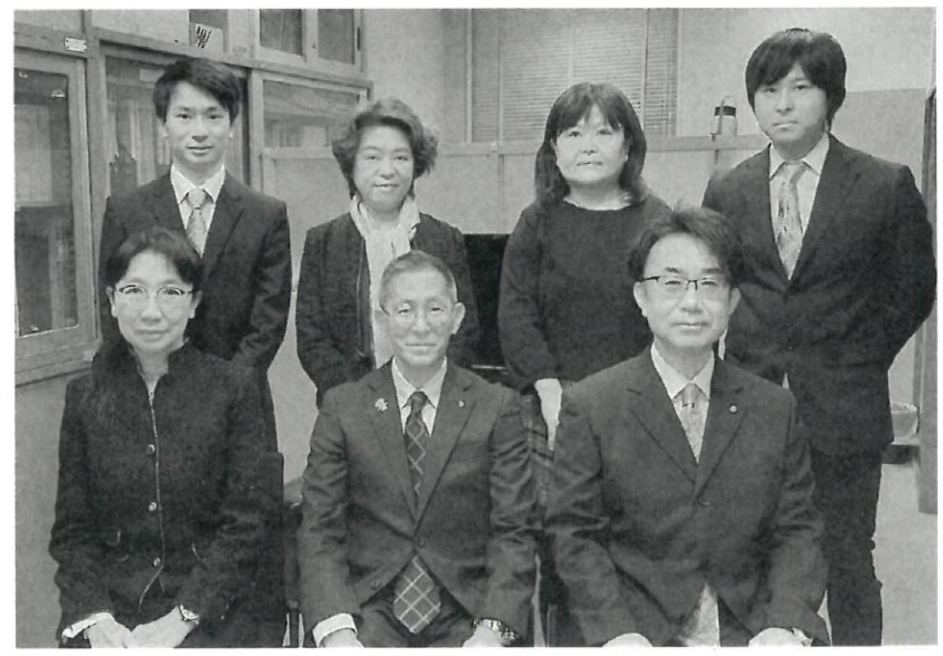
日本歯科大学生命歯学部 小児歯科学講座

チャンプルーの心で育むこどもの笑顔

苅部洋行

日本歯科大学生命歯学部小児歯科学講座

連絡先：〒102-8159 東京都千代田区富士見1-9-20



医局DATA

講座・教室設立年月日：1971年4月1日　主任教授名：苅部洋行　医局員人数：教授1名，准教授2名，講師2名，大学院生2名，非常勤講師12名　主な研究テーマ：①小児の歯科治療における情動反応メカニズム，②小児期の口腔疾患の発症機序解明と予防，③全身疾患を有する小児の歯と顎顔面頭蓋の成長

講座の沿革

1971年4月，故菊池進教授のもと小児歯科学教室として開講した．1996年4月には故荻原和彦教授が主任教授に就任し，2001年1月には大学講座と附属病院小児・矯正歯科の二元化にともなう組織改編が行われ，故大出祥幸教授が小児歯科学講座の主任教授に就任した．2006年10月に苅部が主任教授に就任し，現在に至っている．

講座の特徴

「誰もが快適に歯科医療を受けられる社会の実現」を目指し，①機能的磁気共鳴画像法(fMRI)を用いた歯科恐怖の神経基盤の解明，②嘔吐反射に対する補完療法の臨床応用，③小児・AYA世代がん経験者に対する医療支援体制の構築，を現在の研究テーマとして取り組んでいる．

歯科恐怖の発症には，過去の治療経験，家族や周囲の影響，メディア情報，遺伝的要因，性格特性，認知特性など，さまざまな要因が関与すると考えられている．本講座では精神科との共同研究を長年継続し，歯科恐怖の発症メカニズムや神経生理学的特徴の解明を進めている．

嘔吐反射は本来，異物の侵入を防ぐための生理的防御反応だが，歯科治療の受療や治療提供を困難にする要因にもなる．そこで，小児にも応用可能で安全性と汎用性の高い補完療法に着目し，その有効性を科学的に検証している．

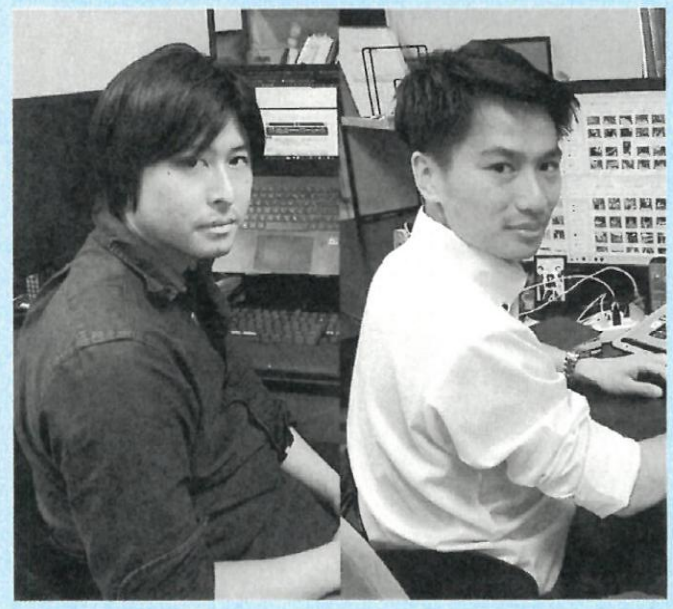
また，小児がん経験者では歯の発育障害が生じることが知られている．小児がん治療に用いられる薬剤が歯の発育に及ぼす影響について基礎的研究を行うとともに，小児科との共同研究により，歯の形成障害の発現状況やリスク因子の解明に取り組んでいる．

本講座では，医局員や大学院生の学会発表を積極的に支援しており，これまで国内外の学会において学術賞，奨励賞，大会優秀発表賞など多数の受賞実績を有している．

また，主任教授である筆者は，2026年5月に開催された第64回日本小児歯科学会大会の大会長を務め，「チャンプルーの心で育むこどもの笑顔」を大会テーマに沖縄での学術大会を成功裏に終えることができた．

小児歯科学には，まだ解明されていない現象や克服すべき課題が数多く残されている．既存の枠組みにとらわれない発想と学際的な研究手法を取り入れながら，新たな知見の創出と人材育成に取り組み，小児歯科学のさらなる発展に貢献していきたい．

わが医局のエースたち



小泉憂起大学院生(左)，齋藤貴彬大学院生(右)

本講座には，現在2名の大学院生が在籍している．いずれも学部学生時代に小児歯科学講座へ配属され，半年間にわたる研究活動と学内発表を経験した後，大学院へ進学した．学生時代から研究への高い意欲をもち続けている，将来を期待される若手研究者である．

小泉大学院生は，歯科恐怖における視覚刺激への反応について，皮膚電気活動，心拍変動，脳機能計測，眼球運動などの多面的な生理指標を用いた研究に取り組んでいる．

齋藤大学院生は，社会福祉士および精神保健福祉士の資格を有し，病院勤務経験をもつ異色の経歴を備えている．現在は，嗅覚刺激と歯科恐怖との関連について研究を進めている．

今後も両大学院生が国内外の学会で活躍し，新たな研究成果を世界へ発信してくれることを期待している．